



# 火と土と木と水のある暮らし

自然のスピードで生きてみませんか





# 田 楽 研 究 所

## 田舎の暮らし、教えます

私たちは京都府綾部市で活動する  
でんがくけんきゅうじょ  
「田楽研究所」です。

### 「田舎を楽しむ」略して田楽。

田舎生活を楽しむための知恵や技術を  
伝承することを目的とするのが田楽研  
究所です。

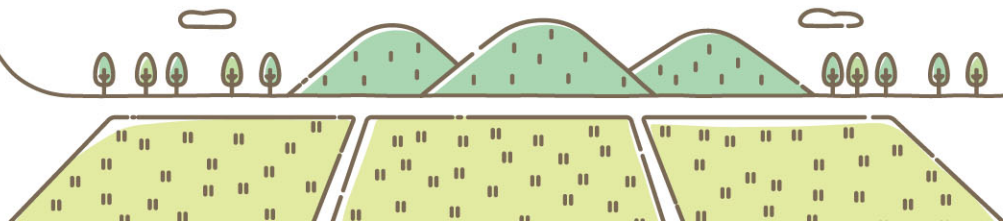
綾部市には12の地区がありますが、  
その中の一つにしやた「西八田」という地区の  
有志が田楽研究所の中心メンバー。綾  
部市と官民協働の活動です。

田舎暮らしの良さを知った方々の興  
味が綾部に向いたとしたら、とても嬉  
しいことです。

活動の中心は「田楽学校」です。意  
味するところは「田舎を楽しむ学校」。  
年に一度のイベントで、センセイがいて  
生徒がいて、参加自由の授業を行うも  
のです。→詳しくは5ページ

そしてもう一つは「田楽塾」。これは  
田楽学校で興味を持ったことを継続して  
学ぶために、綾部に通って受ける課外  
授業みたいなもの。→詳しくは11ページ

さあ、興味が湧いたらこのまま読み  
進めて、田楽研究所の活動を知って  
ください。そしてさらに興味が強くなっ  
たら、ぜひ私たちに会いに綾部まで来  
てくださいね。



## 田楽研究所

きのした よしのぶ  
代表 木下 芳信

わが綾部市も多くの田舎と同じように人口が減り続けています。一方、都会からは「田舎暮らしに興味がある」「自分の手で食べ物を作りたい」といった人たちが次々と綾部を訪れています。それならば、お互いにパズルの隙間を埋めることができるのでは？

田楽研究所は、田舎暮らしの知恵や技術をお伝えし、楽しさを体感していただくことを目指して活動しています。

「田楽学校」と「田楽塾」が田楽研究所のメインの活動です。空き家のこと、リノベーションのこと、草刈り機やチェーンソーの使い方、農家民宿の始め方、移住した人たちの暮らしぶり、仕事のこと、子育てや教育のことなど、多岐にわたる授業があり、きっとあなたが求めているであろう学びの場となるに違いありません。

あなたが探すパズルの最後の1ピースが見つかることを願っています。



# わたしたちの活動①

田舎が舞台の  
学校ごっこ



# 田 楽

みんながセンセイ、

田楽学校は、小学校を丸一日借り切って、田舎を楽しむための授業を行う「学校ごっこ」です。センセイは手弁当、生徒は無料。誰でも好きな授業を選んで受けられるのです。

もちろんほとんどのセンセイは本当の教師ではありません。でも各方面のプロ。長年、積み上げてきた経験を伝授してくれる授業は、きっとみなさんの好奇心を刺激するものばかりです。だから毎回「どの授業を受けようか迷う」という生徒が続出！

授業はたとえば「移住者のイマ」「空き家選びのポイント」「農家民泊の始め方」「古民家選びのポイント」「みりん作り」「しめ縄作り」「田舎暮らしのヒント」



# 学校

## みんなが生徒♪

「森づくり」「田畑の一年」「米粉の活用」など多岐にわたっていて、しかもすぐに役立つものばかり。どうですか？授業を受けてみたくありませんか？

田楽学校の目指すところは、移住を考える都市生活者と綾部の交流のきっかけとなること。移住を考えている人には、田舎生活をイメージしてもらい、スムーズに暮らしに溶け込んでもらえるように。それ以外の人には、生活を楽しくする知識や技術を学んでもらえるように。センセイも生徒も楽しんでこそその田楽学校です！



第2回 田楽学校の  
すべての授業が見られます

どんなセンセイがいるか  
気になる人は次のページへ♪ →



しおみ なおき  
**塩見 直紀**センセイ

第1回 田楽学校 基調講演

「みんなが天の才を発揮し合う時代に」



塩見さんは著書「半農半Xという生き方」で数えきれない人たちの生き方に気づきを与え、「半農半X」の考え方を広く定着させました。

記念すべき第1回田楽学校の基調講演を飾ってくれたのは塩見さんでした。「故郷の綾部にUターンして20年余り。田舎暮らしを始めてわかったのは、村人はみんな先生であること。みんなのエクス(天与の才)を活かし合い、新たに組み合わせ、すてきな化学反応がおこる時代にしていましよう」(塩見直紀)。

こうさか まさる  
**高坂 勝**センセイ

第2回 田楽学校 基調講演

「田舎に散れ!~必要なのはちょっとの  
勇氣とイマジネーションとわずかなマネー」

30歳で心労にて脱サラし、2004年から14年間、東京池袋で小さな Organic Bar を経営。現在は千葉県匝瑳市に住み、米作り指導や移住斡旋を勤める NPO SOSA PROJECT を運営。農家民宿などを運営する(株)Re を創業した高坂さん。

地方移住を考える人の背中を押してくれる授業でした。移



住を悩む人は必聴です。  
著書に「減速して自由に生きる」(幻冬社・筑摩書房)・「次の時代を、先に生きる」(ワニブックス)など。





かねだ かつひこ

## 金田 克彦センセイ

## 「ゴキゲン田舎暮らし・家族・生きる力」

大工を業としつつ田  
6反5畝、畑、木の伐  
採、狩猟等々、自然  
と繋がる「暮らし仕  
事」を家族全員で行  
う金田家。



生きるための仕事だ  
から「働くことが当たり前」—金田家の姿を見てい  
るとそう思えてきます。子どもたちも獣をさばき、薪割  
りをし、重機を操り、田んぼの仕事にも精通し、ま  
さに日々の暮らしから「生きる力」を身に付けてきた  
のです。

授業では、そんな金田家の暮らしぶ  
りをたくさんの写真とともに紹介して  
くれました。



くちゅう てるゆき

## 工忠 照幸センセイ

## 「ローカルツーリズムの始め方」

大阪から妻、衣里子さんとともに綾部に移住し、「里  
山ゲストハウス クチュール」を開業、さらに旅行会  
社「MATATABI」も立ち上げ、通訳案内士としても  
活躍する工忠さん。綾部の情報発信と交流人口を増  
やすことに大きく貢献しています。

ローカルを旅して“X”と出会う「天職観光」にも  
力を入れる工忠さんは、地域の人に会いに行つて「暮  
らし方を考える旅」  
を提唱しています。



みやその

## 宮園 ナオミセンセイ

### 「お米でビジネスモデルを 作ろう！」

大阪から移住し、上林で「未来型米屋」を  
目指し「米粉」や「米粉を使った商品」の  
開発・販売を行う「KOKU」の宮園センセイ。

米粉パンの試食を交えつつ、お米ビジネス  
が日本の農業を救えるか!?と米粉の可能性  
を熱く語る授業は大盛況。



## センパイ移住者

ふじやま としき やまね あきら  
藤山 等章センセイ、山根 顕センセイ  
しげもと しんべい  
重本 晋平センセイ

### 「センパイ移住者の本音でトーク！」

ここ数年以内に綾部に移  
住したセンパイ移住者3  
人が、移住までの経緯や  
日々の暮らしの様子をリ  
レーで話してくれました。  
年齢も、それまでの経験  
や現在の仕事、暮らしぶ  
りも三者三様ですが、み  
なさん田舎の暮らしにすっかり溶け込んで、  
都会にいたときよりも充実した日々を送って  
いるようです。

これから移住を考えている方々にとって、  
大いに参考になる授業でした。



ぬまた  
沼田 もえセンセイ

「皆で考えるこれからの小学校」

子育て世代にとって大きな関心事のひとつは教育環境。



いま話題の『イ  
エナプラン教育』  
について紹介。

沼田センセイを中心に参加者のみなさんと理想の教育や子育て環境、そしてこれからの小学校についてディスカッションしました。

終了時間が来ても話は尽きず、白熱した授業でした。

ひらた よしひろ  
平田 佳宏センセイ

「移住から5年。田舎暮らしと家。」

大手企業を早期退職して綾部へ移住して5年。週に3日、ローカル新聞社に勤めながら、無肥料・無農薬の自然栽培で田んぼや畑をやっている平田さん。

自分でモノや食料を作る生活は、カネや組織、効率や生産性、虚栄心、同調圧力といったことから距離を置くことができます。

そうすることによって心が自由になっていくのです。それが「自給自立」という考え方です。



# 田楽塾

「田楽塾」とは、田楽学校で学びきれなかったことを継続して学ぶために綾部に通ってもらう課外授業です。田舎暮らしに役立つ知恵や技を学べる塾に通うなんてワクワクしませんか？

綾部は京阪神から通うにはほど良い距離。午前中に田んぼの世話をして、午後からは野菜づくりや木の伐採、薪割り、草刈り、火のおこし方を学んだり、古民家巡りをしたり。

そうするうちに田舎暮らしの技が身に付き、友だちができて、綾部の暮らしを深く理解できるようになるでしょう。

ただいま開塾にむけて準備中ですので、楽しみにしててくださいね。



“田舎を楽しむ”  
3つのステップ

 田楽学校



 田楽塾



 移住の準備

Step 1

田舎の暮らしや楽しさを知りたいければ、まずは年に一度の田楽学校に参加してみましょう。バラエティに富んだ授業が盛りだくさんだから、どれを受けるか迷って困るかも。

Step 2

田楽学校で田舎を楽しむ知恵や技に興味を持ったら、もっと深く学んでみましょう。綾部に何度も通ってコメや野菜を作るなど、実践型の授業を受けたり、友だちを増やしたり、家探しをしたり！

Step 3

田舎の暮らしや、そこで生活する自分自身の姿をイメージできるようになったら、移住の準備を始めてみてはいかがでしょうか。「移住立国あやべ」を掲げる綾部市がサポートします。





綾部市星原町の田園風景



## 「暮らし仕事」の息づく

### 綾部の暮らし

暮らし仕事とは、薪割りや草刈り、家の修理、収穫物の保存など、生きていくために必要な仕事。家族で助け合ってやっ  
ていく。すると家族の結束と生きる力が生まれるのです。





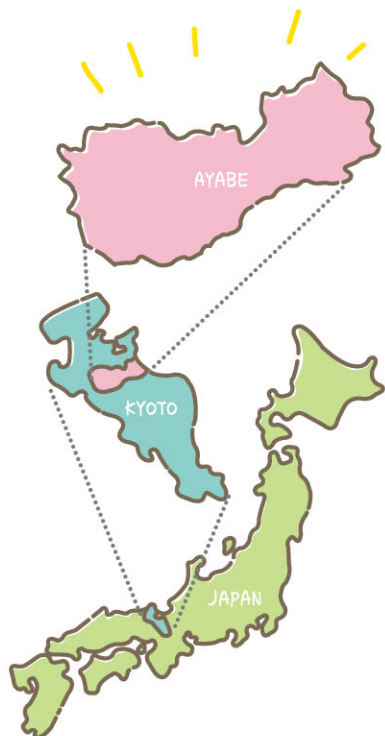


## 自給自立

自分で生み出す暮らしなら価値観も自分で  
決められる。だから心が自由になる。



# 綾部市について



綾部市は、京都府の中央北寄りに位置する田園都市。美しい自然環境や豊かな里山・田園と農村の暮らし、平和と歴史・文化に彩られた市街地など、地方小都市ながらさまざまな機能や特性がバランスよく備わっています。

強い郷土愛や高い文化度、温厚で粘り強い市民性、進取の気質、営々と受け継がれてきた地域の伝統行事など、多くの有形無形の歴史的・文化的資産。

そして、京阪神地域や日本海地域からの良好なアクセス環境。国際貿易港である京都舞鶴港の后背地に位置するという地の利。これらはすべて綾部市の大きな魅力です。

綾部市が目指すまちの姿は、美しく豊かな里山・田園の「ゆったり感・やすらぎ感」、平和と歴史・文化に彩られた市街地の「安心感・幸福感」、ものづくり

をはじめとする産業の「躍動感・充足感」などを享受  
できるまちです。

この地に暮らし始めた人たちの多くが口にするのは  
「住んでよかった」という言葉。そんな綾部が気になっ  
たら「田楽学校」や「田楽塾」にぜひご参加ください。

## 住んでよかった…

ゆったりやすらぎの田園都市・綾部





# 移住立国あやべ

## 綾部市の取り組み

## 移住者歓迎の取り組み

「綾部に一人でも多くの人に移住してほしい」—そんな歓迎の気持ちを知っていただくために官民協働で取り組んでいるプロジェクトが「移住立国」です。田楽研究所は、移住立国と歩調を合わせて活動しています。

日本は都市と地方の人口バランスが極端に悪い国です。特に首都圏への人口集中の度合いは世界に類を見ないほど。日本の食料自給率は40%を切っており、先進国中最低。地方の人口減少がこれをさらに深刻化させます。人口のアンバランスを是正せずに放置することは国にとってのリスクです。

移住立国とは、移住促進によって綾部を活性化することだけを目指すものではなく、大都市から地方へ人口が分散することで日本全体のバランスを取り戻し、人々や国土が健全に自立することを目指すものです。移住によって国を建て直したいという思いを込めて「移住立国」としました。



「移住立国あやべ」  
ホームページ

## ここらへんのことつたえ隊

移住立国プロジェクトの活動の一つ、「ここらへんのことつたえ隊」。地域のことや暮らしのことなど、移住希望者のみなさんが抱えているさまざまな疑問点を気軽にご相談いただける人たちの集まりです。

移住者を中心メンバーとしたボランティア組織で、綾部市の運営する「あやべ定住サポート総合窓口」と連携・協力して活動しています。

このフラッグの掲げられた家や店に「ここらへんのことつたえ隊」がいます。立ち話するもよし、都合が合えばじっくりと話し込むもよし。

それぞれのメンバーが得意とする分野の話を聞いていただくこともできます。

メンバーとの関わりを通じ、より具体的な移住のイメージをつかんでください。

「ここらへんのこと  
つたえ隊」フラッグ





# 田楽研究所の所員



代表 木下 芳信  
(西八田地区在住)

田舎は楽しいということを知っていただきたいという思いで活動しています。失われた古き日本の良さが綾部には残っています。それを伝承していくことの大切さをあらためて噛みしめています。

田楽研究所で  
どんなことを  
やってみたい？



副代表 平田 佳宏  
(西八田地区在住)

これからの時代は「自給自立」の生き方が大事。そんな暮らしを求め人たちの背中を押すことができれば嬉しく思います。



藤山 等章  
(西八田地区在住)

田舎暮らしの良さを語り合い、呑み合い、経験し合い、みんなが安心して移住できるようお手伝いしたいと思います。



四方 房夫  
(西八田地区在住)

昔にも劣らないほどの稲穂のたなびく美しい田園風景を取り戻したいです。田舎の良さを理解する移住者の活力に期待しています。



藤山 久美子  
(西八田地区在住)

綾部に伝承される味を教わりながら再現してみたい。それによって地元の人たちと移住を望む人たちを繋げたいです。



能勢 康司  
(西八田地区在住)

お互いに支え合う、かつての綾部のよき暮らしを多くの人に知っていただきたいです。ぜひ一緒にそんな暮らしを！



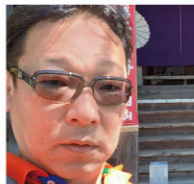
朝子 直樹  
(綾部市定住交流部部长)

綾部に生まれて暮らして50年。実は僕たちこそ田舎を楽しむことに無欲無関心だったと気づかされる今日この頃です。



**滋野 浩毅**  
(京都産業大学教授)

学生がかかわれるような道筋を作りたいと思います。特にやってみたいのは学生とあやべの人たちの学びあいの場づくりです。



**杉井 敏之**  
(東八田地区在住)

田楽学校で、次世代に残していきたい、残すべき綾部の郷土料理(酒の一品料理)の授業を開催したいと思っています。



**水田 ウタコ**  
(西八田地区在住)

ZoomやClubhouseで綾部暮らし、田舎暮らしに興味がある同世代の方々とお話するオンライン飲み会をやりたいです。



**綾部市定住・地域政策課**

これからも田楽研究所と連携し、移住を考える方を支援するため、オール綾部で頑張ります!



**山根 顕**  
(吉美地区在住)

地方への移住に興味を持っている人が、次の行動へ一歩進めるようなきっかけづくり。そのために毎年の田楽学校開催を積み重ねていきたいです。



**重本 晋平**  
(吉美地区在住)

この研究所での学びや発見を、自分の生活の中で実践していきたいです。田舎生活の楽しさや魅力も発信したいと思っています。



**重本 愛子**  
(吉美地区在住)

移住して感じる日々の愛おしさや自然の温もりをイラスト・デザインを通じて表現したいと思えます。



**和田 知子**  
(中丹素敵農女研究所)

当研究所研究員、素敵農女農子と農子マネージャー・TASK(タスク)が、中丹の農業女子や田舎で生き生き暮らす女子を絶賛応援中!! 田楽学校大好き♡



編集・発行



田楽研究所

ご自由にお持ち帰りください(無料)

お問い合わせはホームページの「お問合せフォーム」からお願いします。

「田楽研究所」  
ホームページ

